

A-TIC -PRESS

エーティック広報誌

2019
夏
第7号

ごあいさつ

盛夏の候、皆様に於かれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和の時代となりました。

時代の境目では、何か真新しいことを追い求めてみたり、あるいは過度にノスタルジックに浸ってしまう風潮になりがちですが、新しい時代になったからこそ、変わらずに大切にすべきこと、常日頃から心がけるべきこと、備えるべきこと、そんな“普遍的”な価値や課題を真摯に追求する一年にしたいと考える今日この頃であります。

やはり、その最たるものは災害への備えです。

近年の局部豪雨や昨年の地震を体験するにつれ、それらを「異常」ではなく「通常」として捉え「組織」と「意識」をパラダイムシフトさせる必要性を痛感しております。

地域を守る頭脳集団として使命を果たしていくためにも、一つ一つ改善を重ねながら即応体制を整えてまいります。

また、生産性向上、品質・安全確保、人材確保・育成などなど業界を取り巻く経営課題は山積みです。

i-Con やBIM/CIMをはじめ様々な施策に対応し総合技術力を高めていくことは勿論ですが、コンサルタントは人が命。

デジタルを自在に操りつつ、やはり最後はアナログのチカラではないでしょうか。

感情(やる気)、コミュニケーション(協働)で生産性は半分にもなり、そして倍にもなります。

CPU(頭脳)やHDD(知識、技術)が高性能でも、メモリ(器、ハート)の容量が足りなければフリーズします。

そんなことを徒然と思い巡らしつつ、「働き方改革の真髄とは何だろう、、、？」と思索を続ける日々です。

そんな“人づくり”の一環として、今年から「エーティック若手の会」を組織し、先日その初弾として一泊研修を行いました。私をはじめ指導役の中堅・ベテランもウカウカしてはられないほどの熱気とハングリー精神に圧倒されっぱなし。彼ら彼女らがやりがい、使命感、そして自信を持って成長し皆様に信頼される“問題解決型コンサルタント”になれるよう、これからも継続的に企画していきたいと思っております。

さらに、7月1日より強力な助っ人として行政経験豊富なお二方に加わっていただくこととなりました。

そのような“人”にスポットを当てた記事を中心に本号も盛りだくさんです。

A-PRESS、記念すべき令和第一号を是非お楽しみください。

株式会社エーティック

代表取締役社長 舟田 幸太郎



令和元年6月
エーティック
若手の会 開催!

- 未来のヒーローインタビュー 2019 (新入社員紹介)
- エーティック若手の会開催
- 土木技術者列伝 第3回 廣井 勇 (文)井形 淳
- 道内トンネル文献あれこれ
- エーティック業務紹介 (文)薬師伸彦
- 就任ご挨拶
- 技術者コラム 第7回「初めての現場監督」 (文)上谷誠司
- 全社研修会・安全大会

CONTENTS

未来のヒーローインタビュー-2019



かつらがわ ゆうひ
桂川 優陽
札幌工科大学
環境土木工学科 卒
計測事業室
テクニカルグループ

Q この業界を選んだ理由を教えてください。

ダムや橋等の大型建造物に関する仕事に携わりたいと考えていたため。

父親が土木関係の仕事をしており、そんな父親に憧れて自分も父親と同じこの業界で働きたいと思い選びました。

Q 学生時代に一番力を入れたことは何ですか？

寿司を握ること。(アルバイトで握ってた)

部活動(バドミントン)です。部活動を通じてあきらめないことを学びました。試合で自分が不利な状況でもあきらめなかったことで勝利し大会で結果を残すことができたからです。

Q エーティックに入社してどうですか？

先輩の皆様方が分からない事は無いか？と気にかけてくれるのでとても働きやすいです。

すごくいい雰囲気の家だと思いました。先輩方も優しく接して下さるので、質問をしやすいです。

Q 休みの日には何をしています？

お酒を飲んで映画と小説を嗜む

動画を見たり、散歩をしに行ったりしています。

Q 初任給で買ったものは何？

電子レンジ

春から一人暮らしを始めたので生活して足りないと感じたモノを買いました。

Q 今はまっていること、おすすめなことは何？

計画を立てずに遠出すること。

豆乳を飲むこと

Q 今後の抱負を聞かせてください。

早く手に職つけて現場で役立つよう頑張ります。

与えられた仕事を一つ一つこなしていき、その中で多くのことを吸収して仕事で活かせる様に取り組みたいと思います。

Q 学生時代、クラスメイトだった彼に一言。

いろいろな人と会話をする事。たくさんの情報を得るとともに、会話力の向上にも繋がります。失敗を恐れないこと。初めから、仕事を完璧にこなす人などいません。わからないことや疑問に思ったことは、積極的にどんどん周りに聞いて、立派な技術者に成長して下さい。

何かあったら互いに助け合っていこう、これからもよろしく!



はせがわ なおき
長谷川 直紀
札幌工科大学
環境土木工学科 卒
調査部
環境グループ

教育係の中村グループ長と

教育係の尾原技師と



「意気軒昂」「進取果敢」な姿勢で仕事に取り組んでいこう。

金欠になったらご自宅へ「突撃!隣の晩御飯」を行います、覚悟しといてください。



エーティック 若手の会 開催!

6月12日(水)から1泊2日で「エーティック若手の会」を開催しました。会場となったのは札幌市南区真駒内にある北海道青少年会館コンパスです。

「エーティック若手の会」とは、入社2年目の新米社員から30代の中堅社員までを対象としたエーティックの未来を担う若者達16名で結成されています。令和となった新時代に新しい試みとして舟田幸太郎社長自らが発案・企画し、この日初めて開催されました。



今回の研修目的はコミュニケーション能力の向上と、プレゼン能力のスキルアップ。中堅社員1名を含む4グループに分かれ、「昨年1年間の自身の仕事」をテーマに、1日目は工夫した点・苦勞した点・課題・改善提案等について話し合い、2日目に各自プレゼンテーションを行い発表内容について質疑応答、ディスカッションが行われました。



和やかな雰囲気
楽しそう!



参加した社員からは……

将来に対する思い、他部門の若手から視点の異なる有益な意見、ベテランと若手のコミュニケーション、実務を体験する事の大切さ、業務で苦勞したことなど、仕事を進めていくうえで非常に参考になった



エーさん

普段他部門の社員が何をしているのかあまり見えていませんでしたが、それぞれの発表の中で、どういった仕事をして、そこでどんな悩みや苦勞があるのかを聞けて非常に興味深かった

みんな
コミュニケーション
ちゃんととれてるね



ティックくん

自分の業務の中で何か問題があるか、改善できることはないか振り返ることができた。他部の若手と情報を共有することによって、違う視点での解決方法など知ることができた

学ぶことの多い
大変有意義な会となったようです。



宿泊しての研修となったため、夜はリラックスした格好で食事会。お酒を囲み盛り上がりました。若手社員の結束もこれまで以上に強まり、充実した内容の若手の会でした。



近代土木の先駆者にして北海道開拓の牽引者

廣井 勇 (ひろいいさみ)

井形 淳



廣井 勇 (小樽港湾事務所 提供)

清きエンジニア

廣井 勇(ひろいいさみ)は土木技術者として近代日本の土木界を牽引した先駆者であり、道内重要港湾の整備をはじめ、最初期の鉄筋コンクリートである広瀬橋(仙台市)や鬼怒川水力ダムなど、数多くの建造に携わり、鉄筋コンクリートのためのセメント用法実験など、現代にも数多くの業績を遺しています。また、廣井は教育者としても多くの門弟を育て、近代日本の黎明期に多くの技術者を世に送り込みました。廣井は良心を貫く技術者でもありました。自分の提言や新技術開発により事業が成功しても、「費用に余裕があるならばその資金で工事を一層完璧にさせていただきたい」と言い、一切の報賞金を受け取ることはありませんでした。キリスト教思想家であった親友の内村鑑三が、「廣井君在りて明治大正の日本は清きエンジニアを持ちました」と弔辞を献じたほどだったのです。

苦難の半生から万能の土木技術者へ

廣井 勇は1862(文久2)年、土佐藩御納戸役の廣井喜十郎の長男 数馬として生まれ、地元佐川の領主深尾氏が創立した郷校名教館(めいこうかん)で儒学者の伊藤蘭林に学びました。名教館は、同世代の植物学者、牧野富太郎(近代植物分類学の権威)をはじめ多くの著名人を輩出しており、曾祖父の廣井遊冥も同校で教授を務めています。

廣井家は郷土の名士を輩出する家系でしたが、1870(明治3)年父が早逝したために生活は一気に困窮します。この頃に名を勇と改め、叔父の片岡利和を頼って上京し、工部大学校(現東京大学工学部の前身の一つ)予科へ入学し、その後、学費負担のない札幌農学校へ入学します。同期には内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾らがいます。当時はW・S・クラークに代わり着任したウィリアム・ホイラーが土木工学の教鞭を取り、廣井は彼から大きな影響を受けます。

札幌農学校を卒業後、北海道開拓使を経て工部省に入省しますが、1883(明治16)年に私費で渡米するとホイラーの紹介を受けてセントルイス陸軍工兵隊本部(米国の土木事業を司る機関)で技術者として治水工事や橋梁設計に携わります。その後ドイツ留学を経て1887(明治20)年札幌農学校工学科の教授に就任します。1893(明治26)年には札幌農学校に在籍しつつ、北海道庁技師と小樽築港事務所長を兼任し、小樽港築港事業(北防波堤第1期工事、1897-1908)に携わり

ます。その功績は土木界の重鎮、古市公威の目に留まり、1899(明治32)年東京帝国大学教授に就任しました。

小樽開港に向けて

小樽は特に冬季波浪の影響が大きく、港湾施設及び船舶の安全のため、防波堤建設が待望されていました。廣井はコンクリートブロックを組み合わせ、捨石基礎の上に配置する防波堤計画を立案します。防波堤ブロックは波力への抵抗が増すよう71.6度に斜積みする「斜塊ブロック」工法を採用しました。また、国産化コンクリートは築港事業での亀裂事故が多く、外洋の荒波に耐え得るコンクリートブロック開発は喫緊の課題でした。廣井は道内で産出される火山灰をセメントに混入して強度を増す方法を採用し、より大きいブロックの製造を可能としました。こうした新技術の導入により、1908(明治41)年小樽港北防波堤が完成します。これは国内初のコンクリート長大防波堤であり、100年の荒波に耐え、今もなお供用されています。



手宮公園より小樽港北防波堤を望む

井形 淳 設計部 次長 工学博士/技術士(建設部門)



昨年は「北海道命名150年」として各種関連イベントが実施されましたが、開拓当時、北海道は広い大地と交通難所が開拓者の前に立ちはだかっていたそうです。そんな北海道黎明期では、港は現在よりずっと重要な施設だったと思います。北海道の開港事業に多大な功績を上げ、教育者として多くの後継者を育て土木界の礎を築いた偉人をご紹介します。

〈略歴〉

1967年 札幌市生まれ。1993年 室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年 室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所勤務を経て、建設コンサルタント会社に勤務、2015年 (株)エーティック 入社

廣井 勇の功績

廣井は防波堤に使用するコンクリート試供体を六万個以上作り、経年変化を確認する耐久試験を行うよう言い残しています。試験は現在も継続され「百年試験」と呼ばれる類をみない長期試験となっています。コンクリート構造物の長寿命化が課題となった現在より100年以上も前に準備をしていた先見の明に驚かされます。このような徹底的な準備の根底には、多くの技術者が携わって生み出された構造物が長く大切に存続されてほしいという創造物への愛情が感じられます。

様々な分野でマルチに活躍した廣井勇の最大の功績は人材育成にあります。札幌農学校、東京帝国大学を通じて育てた門弟は、堀見末子、青山士、太田圓三、増田淳、八田與一、久保田豊、田中豊、宮本武之輔、石川栄耀など錚々たる顔ぶれであり、いずれもが各分野で活躍し歴史に名を残しています。これほど多くの後進を導いたのは、苦難の時代を過ごしながらかつて怠らな廣井だからであり、100年を超えて続く我が国の土木技術の未来を見通す目を持っていたからに違いありません。



小樽港北防波堤



廣井の制作した試供体 現在4000個ほど残存 (小樽港湾事務所 提供)



設置された斜塊ブロック (小樽港湾事務所 提供)

対外発表

岡田専務執行役員、設計部井形次長が、土木遺産トンネルに関する論文(共著)を、2019トンネル技術研究発表会で発表しました。

論文名 選奨土木遺産トンネルの概要と活用事例
—旧函館本線神居古潭トンネル群—
(2019トンネル技術研究発表会 論文集 2019年2月)
発表者 岡田正之(エーティック)
共同執筆者 井形 淳(エーティック) 原口征人(北海道開発技術センター)

〈概要〉
土木学会選奨土木遺産に認定されたトンネルは、全国に34箇所、61本あり、このうち半数は、現在も建設当時のまま現役で活躍している。また、柳ヶ瀬隧道(福井県)、関門トンネル(福岡県・山口県)等いくつかのトンネルは、日本のトンネル史において先駆的な役割を果たしており、土木遺産

トンネルに触れることで、我が国のトンネル技術の足跡をたどることが可能であると考えられる。
道内には2箇所の土木遺産に認定されたトンネルがあり、その一つである旧函館本線神居古潭トンネル群(平成27年認定)は、琵琶湖疎水を完成に導いた田邊朔郎が中心となって建設された。工事は膨張性の蛇紋岩に難航するも1897(明治29)年完成、さらに険しい断崖を縫うようにして路線改良工事は続き、昭和2~3年には、春志内、伊納の各トンネルが完成した。これらトンネル群は、約70年の間道内幹線鉄道輸送路を支えた。廃線後は、我が国で初めてサイクリングロードに転用し、補強工事を経て現在の姿で保存・活用され、大動脈を支えた記念碑として地域に誇れる価値を有している。



神居古潭トンネル

道内トンネル文献あれこれ (平成30年12月~令和元年6月)

専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介し、トンネル関係者の方々に最新情報を提供いたします。詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

■国道・道道他

- ① 日下敦、砂金伸治、北川洋平、河田皓介、原翔平: 山岳トンネルの地震時挙動に関する動的計測結果に基づく一考察, 土木学会論文報告集F1, Vol.74, No.2(特集号), pp1_1-1_17, 2018.
- ② 谷卓也, 古賀快尚, 亀田徹也: 大沼トンネル避難坑岸下工区における工事安全への取組み—坑口土被り区間における先行変位計測と落石検知警報装置の適用—, 2019トンネル技術研究発表会論文集, pp63-71, 2019.
- ③ 鈴木淳, 古市圭典, 山田遼, 齊藤寛治, 小原雄一, 村上達哉: 地表面の土地利用がある低土被りトンネルの沈下対策—ゴルフ場・道路・インフラ設備直下のトンネル施工—, 2019トンネル技術研究発表会論文集, pp73-84, 2019.
- ④ 山岸隆史, 小林真悟: トンネルにおけるロックボルト施工の合理化の取組み—日高自動車道 新冠町 大狩部トンネル工事—, 2019トンネル技術研究発表会論文集, pp85-92, 2019.
- ⑤ 齊藤寛治: 函館新外環状道路 函館市 見晴トンネル工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.64, pp1-7, 2018.
- ⑥ 佐藤公泰: 道道美唄富良野線 東美唄トンネル工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.64, pp8-11, 2018.

■高速道路

- ⑦ 澤田信之, 上原隆三, 益子篤史, 中井共成: 地すべり対策区間に安定処理盛土を用いてトンネルを構築—後志自動車道 船取山トンネル—, トンネルと地下, Vol.50, No.6, pp25-32, 2019.

■新幹線・鉄道

- ⑧ 工一寿史: 北海道新幹線、立岩トンネル(立岩)他工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.64, pp12-15, 2018.

■その他

- ⑨ 原口征人, 岡田正之, 井形淳: 選奨土木遺産トンネルの概要と活用事例—旧函館本線神居古潭トンネル群—, 2019トンネル技術研究発表会論文集, pp19-28, 2019.
- ⑩ 青柳和平, 櫻井彰孝, 棚井憲治: 幌延深地層研究センターの立坑掘削損傷領域の水理・力学的挙動に関する研究, 第46回岩盤力学に関するシンポジウム, 土木学会, pp142-147, 2019.
- ⑪ 本島貴之, 小池真史, 萩原健司, 青柳和平: 低強度・高地圧地山における大深度立坑支保設計手法の研究, 第46回岩盤力学に関するシンポジウム, 土木学会, pp208-213, 2019.
- ⑫ 丹羽廣海, 倉橋稔幸, 岡崎健治, 亀村勝美: トンネル先進ボーリングデータの分析による合理的地山評価に向けた検討, 第46回岩盤力学に関するシンポジウム, 土木学会, pp148-153, 2019.

発注者 支援室

弊社の発注者支援業務への関りは古く、当時若手として担当していた社員も今では定年を迎えつつあります。その歴史の中で、発注者支援業務に対する社内の位置付けは時代とともに変化してきました。当初は設計部門の業務の一部として対応していましたが、需要の拡大や役割の変化に伴い、民間事業者として創意工夫により更なる効率化を目指し組織化を進め、現場技術業務グループ、マネジメント事業室と名称を変えて、今の発注者支援室があります。

現在、北海道開発局発注の「工事監督支援業務」、「道路許認可審査・適正化指導業務」および、北海道発注の「現場技術業務」を主体に行っています。今後、官民連携して働き方改革、業務環境改善が進む中、発注者支援業務へのニーズは更に高まるものと予想されます。その期待に応えるため、これからも重点事業の一つとして改善努力を継続するとともに体制を強化してまいります。

監督支援グループ

工事の円滑な履行 および品質を確保

監督補助として施工状況の確認・報告、設計変更資料作成などを行い、公共工事における施工の適正化及び品質確保の維持を図っています。



現地確認状況

特殊車両審査グループ

道路の構造を守り、 交通の危険を防ぐ

幅、長さなど一般的制限値を超えた特殊車両は、通行許可申請書を国交省に提出します。

当グループでは申請書の内容や走行する道路構造などから、通行可否や通行条件の付与などを判定します。当社では、独自のシステムによる進捗管理、作業補助ツールによる審査の効率化に取り組み、審査期間の短縮に努めています。



審査作業状況

道路占用審査チーム

法令に基づき 適切な道路の利用を推進

道路用地内の電柱、ガス管、看板など道路上や上空、地下に一定の施設を設置し、継続して道路を使用することを「道路の占用」といいます。

当グループでは国道管理者に提出された占用許可申請が適切であるか判定します。また、歩道の切り下げなどの道路構造の変更、不法占用の指導取締り補助などにも対応しています。



道路占用許可が必要な物件例 (札幌開発建設部HPより)

就任ごあいさつ



前田 和広

常務執行役員

ニーズが多様化する社会インフラの管理業務に応えられるように、経験とチームワークを活かしながら努力してまいりたいと考えています。

<略歴>

1959年 旧栗沢町(岩見沢市)生まれ。77年 岩見沢農業高校農業土木科卒業。82年 旭川大学経済学部卒業。1977年 北海道開発局旭川開発建設部に入局。その後、本局、各開発建設部及び、農林水産省関東農政局で主に公物管理事務に従事。旭川開発建設部調査官を最後に退職。2019年 (株)エーティック入社。



蜷川 浩一

常務執行役員

新たな職場で、36年間培ってきた私の土木技術を、若い技術者の皆様と共有できたら素敵なことだろうな、と考えております。一緒に未来の北海道を創っていきましょう。よろしくお願いいたします。

<略歴>

1960年 旭川市生まれ。82年 北見工業大学卒業。同年 北海道開発局土木試験所に入局、道路部門を担当。札幌、帯広、稚内、小樽、網走開発建設部に勤務。(04~05年には「北海道警察本部規制課」に出向。)小樽開発建設部岩内道路事務所長を最後に勇退。2019年 (株)エーティック入社。

技術者コラム (第7回) …… 初めての現場監督

上谷 誠司

昭和60年4月に室蘭土木現業所(現在の室蘭建設管理部) 苫小牧出張所に採用になりました。昭和57年に大学を卒業し、東京の建築設備会社で約3年間勤務してからの採用なので26歳の新入社員でした。今でこそ中途採用は普通ですが、当時は珍しかったと思います。

道路係に配属になりましたが、大学の専攻が衛生工学だったので道路の構造や施工なんて、まったくわからないド素人。係長はどのように戦力にしていけるのか悩んだようです。与えられた仕事は次席の手伝い。次席とは係長の次に経験のある係員で若手職員を直接指導する軍曹のような存在で、自分の師匠になりました。

来る日も来る日も次席の設計書や数量調書の検算、設計変更に伴う図面の修正です。検算は単なる足し算、掛け算ではないぞ、内容を理解しろと言われたものです。時には故意に間違った歩掛りが組み込んであり、見つけられないと真面目に検算しろと怒られました。夏ころになると砂利道を拡幅舗装するための縦断設計と横断設計の宿題をだされました。当然、実際に施工する図面でなく、勉強のための例題です。設計要領で定規図や勾配などの基準を勉強し、そもそもの基本がわからないので係りの先輩(自分よりも歳は若い、が、ぱりぱりと現場をこなしていました。)から工業高校の教科書を借り、勉強しながら図面を描きました。自分は忙しくはないのですが、師匠が残業をしている時間は遊びには行けません。残業をさぼって寮生仲間と飲みに行きたいのを我慢していました。自分より若い職員が、ゼネコンやコンサルタントの方と打ち合わせをしている姿、監督として現場にいく姿を見ながら、早く自分の現場を持ちたい、そして自分のスケジュールで仕事をしてみたいと思いながら、修行を続けていました。

師匠から交通安全事業(歩道設置)を監督してみると言われたのは検算に明け暮れて1年以上経過した2年目の5月頃でした。隣の出張所の新人は若いながらも1年目で現場を監督していたので、ようやく自分も監督になれると本当にうれしく思いました。

歩道設置工事は事業費が小さいものの用地買収、土工、舗装、排水など多くの工種が含まれており、初めて経験する現場としては最適でした。

積算は検算を1年以上やったので、多少の自信がありましたが、ひとつ、問題が見つかりました。土被りが10m近くある沢の横断管(径600mm)が潰れて楕円形になっていました。仮設道路で切り回して敷設替えできますが、事業

費や交通の影響を考えると問題が大きく、いろいろと考え、下水道でよく使われている推進工法ならと思いつき、出張所にいつも来ているゼネコンやコンサルの方に相談して採用することにしました。当時の自分にとっては大きな冒険でした。

準備をしっかりと歩道設置と、横断管の敷設工事を発注したのですが、やっぱり甘くはありません。地権者から苦情が入り法面の雑木を伐採したとたんに工事ストップ。工事の説明不足が原因で、町の建設課長さんと何度も謝りに行き、ようやく工事再開することができました。

新米監督のために頑張ってくれた施工業者さんの努力もあり、工事は無事完成。地権者対応の難しさ、自分で考えることの大切さ、ゼネコンやコンサルの方と一緒に仕事することの面白さ、多くのことを経験させてもらいました。入社して2年目でようやく技術屋のはしくれになれ、師匠の手伝いから卒業することができたのです。当然、まだまだ見習いみたいなものですが、先輩やコンサルタント、ゼネコンの方々に教えてもらい、失敗もたくさんしながら楽しく技術屋としての道を歩むことができました。

近年はソフトウェアの導入が進み、これからはAIも本格的に活用される時代になっていくと思います。しかし問題を明らかにし解決の方向性を決めていくのは、機械ではなく、技術者です。基本的な技術を身に付け、理解した上でソフトや最先端の技術を使いこなしていくことが重要だと思っています。整備の意図をしっかりと把握し、最適な手法について考え、発注者、施工者、設計者が一緒になって良いものを作り上げていくことが大事であると思っています。

新人の時に厳しい師匠だった先輩は、道を退職して就職したエーティックでも先輩で、やさしく会社員としての生き方を教えてもらいました。本当に感謝しています。

上谷 誠司 常務執行役員

<略歴>

1958年 函館市生まれ。82年 北海道大学工学部卒業。85年 北海道室蘭土木現業所苫小牧出張所勤務。本庁、函館土木現業所、札幌建設管理部などで社会資本の計画、整備に従事。空知総合振興局副局長(札幌建設管理部担当)を最後に道を退職。2018年4月 (株)エーティック入社現在に至る。





第33回 全社研修会 ～ 思いを再確認して

今年も開催しました

4月19日、札幌市生涯学習センター「ちえりあ」にて2019年度第33回全社研修会を開催しました。冒頭に13名の永年勤続者の表彰を行ったあと、開会の挨拶に立った舟田清志会長は「今年は猪年であるけども猛進するのも良いが、賢く考動してさらに上を目指してほしい」と述べられました。研修会では、舟田幸太郎社長が「夢を持って!その夢に対して自分は何が出来るかよく考えてほしい」と激励した後に、中長期計画最終年度の発表を行い、創立50周年に向けて全社員が一丸となるよう呼びかけました。閉会後は決起懇親会を琴似のホテルヤマチにて行い、大いに楽しく盛り上がった後、今年度の目標達成をあらためて誓いました。



安全大会

～ 安全第一を最優先に、今年もゼロ災害の達成を



5月16日、札幌市生涯学習センター「ちえりあ」にて2019年度上期安全大会を開催しました。

弊社、協力会社25社から110名が参加。大会では舟田幸太郎社長が個々の安全意識の大切さを説き、年齢・上下の関係、会社の関係などに囚われない声かけ、注意喚起を提案しました。安全担当役員の岡田専務執行役員からも、立場に関わらずどんな小さな問題点も指摘できる環境づくりへの協力の要請とともに、自身の実経験から安全対策の具体例を紹介しました。

2018年度は無事ゼロ災害を達成し、協力会社はじめ社員の日頃の安全管理の徹底が実を結ぶ結果となりました。今年度以降もこの結果を継続すべく、弊社安全衛生委員会では『現場安全ハンドブック』を作成しました。今年度もゼロ災害の達成に向け、送り出し教育やKY活動などに活用していきます。



技術力で地域に貢献

～さらなる品質確保へ

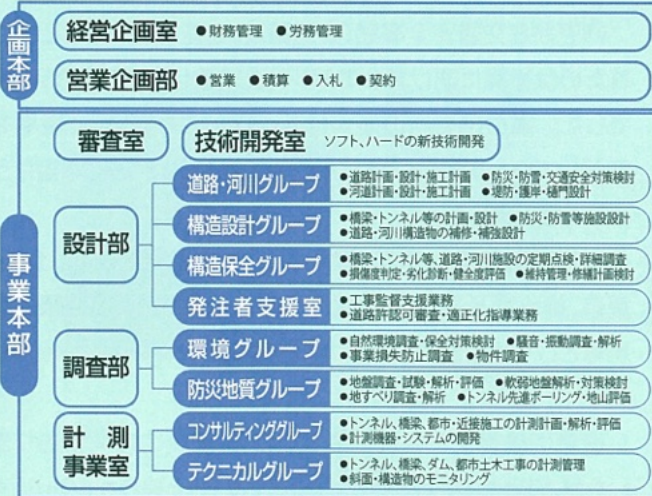
6月4日、ホテルモントレエーデルホフ札幌にて平成30年度札幌市建設局設計等優秀履行業者の表彰状贈呈式が開催されました。平成30年度完了業務から極めて優秀と評価された8件が厳選され、弊社は「湖水大橋ほか1橋補修実施設計」にて受賞。式典では受賞者を代表して弊社舟田幸太郎社長が謝辞に立ち、市民の安全安心を守るため全力を尽くす決意を述べました。



株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 〈本社〉札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 96名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰 平成25年 北海道開発局函館開発建設部 優良工事・業務表彰受賞
空知総合振興局札幌建設管理部 優秀現場代理人・管理技術者表彰受賞
平成28年 北海道開発局札幌開発建設部 優良工事等表彰受賞
平成29年 札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
北海道開発局網走開発建設部 優良工事等表彰受賞
平成30年 北海道開発局室蘭開発建設部 優良工事等表彰受賞
令和元年 札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
北海道開発局札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞

組織図



編集後記

元号が「平成」から「令和」に変わりました。弔事を伴わない初めての改元はお祝いムード一色でしたね。10連休を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。冒頭では今年の新入社員の紹介をさせていただきました。元号が変わる5月1日までは様々な「平成最後」で溢れていましたが、「平成最後」の新入社員が今後成し遂げるであろう「令和初」に、大いに期待したいと思います! 広報委員会 広報誌部会 エーティック女性社員一同